

様式 13

論文の概要および審査結果の要旨

氏名：川嶋 元子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：看博甲第3号

学位授与の日付：2024年3月16日

学位授与の要件：関西福祉大学大学院 学位授与規程第3条第2項

研究科・専攻：看護学研究科看護学専攻

学位論文題目：中規模病院に勤務する外来看護師の在宅療養支援に対する役割認知に関する研究

論文審査委員 主査：今磯 祐子（所属 関西福祉大学看護学研究科・職位 教授）

副査：岡田 加奈（所属 関西福祉大学看護学研究科・職位 教授）

副査：難波 峰子（所属 関西福祉大学看護学研究科・職位 教授）

(1) 論文の概要

本論文は、在宅療養支援の実践において実用可能な中規模病院（本研究では100床～200床未満の病院と定義されている）に勤務する外来看護師の役割認知尺度15項目を開発し、外来通院の在宅療養者が住み慣れた地域での安心した生活を継続できる支援の推進に貢献できることを目的に、3段階の研究課題を設定し研究を行った。

第1段階では、文献検討及び予備調査から選定された在宅療養支援に関する外来看護師による実践内容53項目に、外来看護師6人と尺度開発の経験を持つ専門職者の確認を通して新たに5項目を追加し、役割認知尺度58項目（案）を作成した。第2段階では、役割認知尺度58項目（案）を基に、中規模病院99施設に勤務する外来看護師495人を対象に質問紙調査を実施した。統計分析より「予測アセスメント役割」（6項目）、「リレーションシップ役割」（5項目）、「コミュニケーション役割」（4項目）からなる3因子15項目の役割認知尺度の信頼性及び妥当性が支持された。第3段階では、中規模病院で在宅療養支援を行った経験のある外来看護師8人を対象に開発された役割認知尺度15項目を実際に用いることで、外来通院の在宅療養者の生活を支援する上で外来看護師に求められる実践内容の成果を論述している。

以上の知見を基に、開発された役割認知尺度15項目は、中規模病院の外来看護師による主体的な在宅療養支援につながる看護実践に関わる自己評価として実用可能であり、在宅療養支援の推進に貢献できると提言している。

(2) 論文審査の結果の要旨

研究成果の学術性、論理性、倫理性の保証を確認し、看護学への学術的貢献、及び人々の健康福祉への貢献において、優れた博士学位論文として評価する。